しずくいしの風

高次脳機能障がいメールニュース

第 30 号　<2016 年 6 月　発行>

いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援普及事業

目次

1　高次脳機能障害者に対する理学療法士の関わり

2　研修会情報

3　編集後記

６月は紫陽花がきれいに咲く季節です。紫陽花には、辛抱強い愛情、一家団欒等、様々な花言葉があるそうです。

1．高次脳機能障害者に対する理学療法士の関わり

医療機関で高次脳機能障害のある患者さんと接する際、一見歩行ができて日常生活は自立している方でも、実は動作が緩慢であったり拙劣であったりする場合が多い印象を受けます。

理学療法士は、主に日常生活での基本動作（寝返りや起き上がり、立ち上がり、歩行など）の獲得を目指します。高次脳機能障害を持つ方で基本動作ができる場合でも、それぞれの動作が無理なく、楽に、効率的に行えているか？あるいは痛みなく動くことができているか？考えることが重要であると思います！

具体的にはどんな点をみたらよいか？

・　全身の筋肉の状態（筋緊張）を把握。

⇒　特に失語症や遂行機能障害の方は、日常生活より全身的に筋肉が緊張した状態となりやすいようです。ゆっくりとした腹式呼吸や筋肉のリラクゼーション、ポジショニング（寝る姿勢をクッションやタオルを用いて整える）を行い、余分な緊張を整えます。

・　関節の柔軟性（関節可動域）

⇒　動作が緩慢である場合、身体の関節の動きも制限されている場合があります。身体の中心となる背柱や、動く範囲の大きい肩関節、股関節の柔軟性は重要となり、これらの部位には痛みも生じやすいです。痛みをやわらげながら、様々な体操などで可動域を広げていきます。

・　バランスの取りやすさ

⇒　座位や立位、片足立ちなど様々な状況を想定したバランスを評価します。いろいろな状況に応じて、身体を柔軟に動かしバランスをとれることが理想ですが、同じような動き方しかできない方も少なくありません。
１人１人の動きの原因を評価し、一緒に動きながらさまざまなバランスのとり方を体で覚えていくような関わりが重要と考えます。

2．研修会情報

①　第２回東京都総合高次脳機能障害研究会
日時：平成 28 年８月６日(土)・７日(日)
場所：東京慈恵会医科大学　本館２階　中央講堂
テーマ：「高次脳機能障害の基礎と応用　医療から地域へ」
主催：東京都総合高次脳機能障害研究会
（理事長：東京慈恵会医科大学 渡邉 修）

高次脳機能障害の基礎、就労支援からみた ADL・IADL の要点、就労支援に至るまで、高次脳機能障害に対しての基礎から応用まで、２日間に渡って幅広く学習できるプログラムになっています。

詳細、申込についてはこちら
http://www.jikei-reha.com/?page_id=3692

②　宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会
日時：平成２８年９月１０日(土)
場所：仙台市医師会館
内容：第１部　講演　１８歳のビッグバン
～見えない障害を抱えて生きるということ～（講師：小林春彦氏）
第２部　パネルディスカッション
テーマ：医療から見た高次脳機能障害の支援
～医師からみた支援のあり方～
主催：宮城高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会
共催：宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネットみやぎ

詳細、申込についてはこちら
http://donmainet.com/index.html

◆◇いわて再発見◇◆
『雫石　千沼ヶ原』

千沼ヶ原は、八幡平国立公園中では最大の湿原として知られています。大小 900 以上の池塘(ちとう)があり、岩手山、駒ケ岳、烏帽子岳等の姿を映す、湿原特有の色鮮やかな高山植物があります。原始性が保たれている点などでは、尾瀬に匹敵するといわれているそうです。

3．編集後記

早いもので６月となり、１年の半分が過ぎました。５月にはゴールデンウィーク、７月からは夏休みがあるため、６月はお休みの少ない時期のようにも感じましたね。気象庁によりますと、東北地方の梅雨入りは６月１３日頃と発表されていました。この時期は雨が多く、じめじめとした気候の日が続きやすいですので、体調管理には気を付け、夏の暑さ対策に備えて行きましょう！！

ご意見ご感想はこちらまで　メールニュース担当（佐藤・渡辺・富山・佐々木）
アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp